



## 神奈川県立多摩高等学校 第66回卒業式

### 校長式辞

神奈川県立多摩高等学校第66回卒業式を挙げるにあたり、多数のご来賓の皆さまにご臨席を賜り、高い席からではありますが、ご挨拶申し上げます。

保護者の皆様、今日は誠にありがとうございます。担任の呼名に凜として立つ我が子の姿をご覧になり、感慨もひとしおかと存じます。心よりお喜び申し上げます。これまで、本校に多大なご支援・ご協力を賜りましたことを、全職員になり代わりまして、厚くお礼申し上げます。

また、日ごろ、本校の教育活動にご理解とご支援を賜っております、同窓会、PTA、地域ほか、関係の皆様がこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

66期生の皆さん、卒業おめでとう。多摩高校で過ごした時間の中で、時には喜び、時には悩み、様々な経験を重ねてきたことでしょう。そして、皆さんは知識・知力を高め、部活動や学校行事を通して多くの友人を得て、大きく成長したはずです。コロナ禍の影響を受けた高校生活でしたが、皆さんの経験は変動性・不確実性・複雑性・曖昧性の頭文字をとったVUCAの時代と呼ばれる「急激に変化し予測困難な時代」、「答えのない問いに社会全体で立ち向かうことが求められている時代」を生きる上で必須とされる力の獲得につながったと信じています。

2023年のノーベル生理学・医学賞は「mRNAワクチン」の実用化につながる新たな技術開発をしたカタリン・カリコ博士とドリュー・ワイスマン博士に贈られました。ノーベル賞はスウェーデンの発明家アルフレッド・ノーベルの遺言に従って1901年から始まった「人類に最大の貢献をもたらした人々」に贈られる世界的な賞です。新型コロナウイルスによって世界中が直面した困難な状況を打破する技術開発は、まさに人類に最大の貢献をもたらしました。困難な状況、課題の解決に向けて、あきらめずに力を尽くすという人間の力が改めて示されました。そして、社会に貢献する業績の素晴らしさ、その影響の大きさも目の当たりにしました。ノーベル賞の理念「世界・社会への貢献」これは本校の教育理念と重なります。本校の校訓「自重自恃」は「自らを鍛え自らの能力を信じて誇りを持ち、自分と他者を尊重し、自己と社会の発展に努める」ことをその精神としています。多摩高校を卒業した後も、卒業生としてこの「自重自恃」の精神に則り高校生活で培った課題発見・解決能力や仲間と共に活動し身に着けた豊かな人間性や他者と協働する力を社会の多くの人間を利することに発揮することを期待しています。

皆さんにこれからの人生の参考となる言葉を贈ります。2018年に免疫抑制分子であるPD-1分子を固定し、世界で初めてがん治療の応用に成功しノーベル生理学・医学賞を受賞した本庶佑京都大学名誉教授は『好奇心 (Curiosity) を大切に、勇気 (Courage) を持って、困難な問題に挑戦 (Challenge) し、全精力を集中 (Con-centrate) して諦めずに継続

(Continuation) することで、必ずできるという確信 (Confidence) が生まれ、時代を変革するような研究を世界に発信することができる。』と継続することの重要性を述べています。また、20世紀最大の物理学者アルバート・アインシュタインは『誰かのために生きてこそ、人生には価値がある』『人の価値とはその人が得たものではなく、その人が与えたもので測られる』という言葉を残しています。

皆さんには好奇心を持っていろいろなことを経験し、自己の能力を有用に生かす場を定めて諦めず継続し、社会に価値ある変化をもたらす人材となることを期待しています。皆さんのこれからの活躍を期待して卒業式という言葉といたします。卒業おめでとうございます。

令和6年3月6日

神奈川県立多摩高等学校長 野田 麻由美